

ただいまカイゴ奮戦中 (第2回)

仕事を続けながら実母の介護をしているRさん(神奈川県在住)の体験談。

第2回はサービス利用時の準備の苦労や、事業所によってちがう対応など。

在宅介護がはじまってからも、母は特に体調も崩さず、医療面では月二回の往診で過ごせていたので、安心でした。仕事中に急に呼び戻されるようなこともありませんでした。

とはいえ、たった一五分程度の往診でも、その日はデイサービスが利用できず、結局一日仕事を休むことに。仕事を立て込んで都合をつけにくい時は焦りました。「介護を抱える職員に理解のない職場であれば、私以上に大変だろうな」と感じていました。

介護サービス フル活用

母は医療費助成の対象になる難病(特定疾患)を抱えていたので、年に一度、その特定疾患の認定更新があり



イラスト・井上ひいろ

ました。更新のたびに何枚も書類を書き、診断書も必要ですから受診しなければなりません。あれこれ検査を終えて帰宅した後は、母ともどもグツタリ。でもこれは年に一度のこと。介護保険のサービスやレンタル用具の利用を増やせば増やすほど、それにともない準備することも増えていきました。

閉店間際に駆け込んで

デイサービスは、毎日利用しました。初めて利用した事業所は問題が多く契約を解除。次に利用した事業所は、毎日入浴サービスがあり、とっても助かりました。持ち物は、バスタオル二枚と着替え一式(これらにはしっかりと記名が必要)。介護の記録を記す「連絡ノート」も毎日つけ、事業所に渡していました。オムツパンツや尿取りパッドなどはまとめて預けるのですが、準備をうっかりして、閉店間際のスーパーに駆け込んだこともありました。

対応の違いにこまどいも

父が亡くなって三年、母の認知症は少しずつすすみ、ショートステイを利用するようになりました。

母の介護度が低かった頃は、月二三日のプランを利用。介護度が高くなるにつれ、利用期間を長くしてもらい

ほっと介護

106

ました。利用にあたってはバスタオルから湯飲みにいたるまで、すべて持ち込み。靴下の色柄まで、着用分、持ち込み分のすべてを細かく記入。衣類に名前を書いた布を縫いつけねばならず、前夜は準備で一苦労でした。

「少しでも認知症の進行を遅らせられれば」と考え、週一回のデイケアも利用しました。しかし、デイサービスよりも迎えに来る時間が遅いため、勤務時間を調整するなど往生しました。

デイサービスの事業所は長いお付き合いだったこともあり、わが家の事情をよくわかってくれたので、迎えは早く、送りは遅くしてくれました。そして、母を部屋まで入れて座椅子に座らせ、テレビやエアコンもつけておいてくれて、大変助かりました。

一方、デイケアで利用した事業所は、送りの時間が早いうえ、「無人の家には利用者を帰宅させない」とのことので、私が職場から自宅に帰るまで短時間、ヘルパーさんをお願いしました。利用者の安全を第一に考えるのも当然だと理解できますが、デイサービスの事業所も同じ対応であったら、わが家はとうなっていたことか…。(つづく)